

JAL SUITE SKY 777

感謝とともに、新しい空へ

日本航空は2013年1月より、すべての座席と食事メニューなどを一新したサービスを開始する。その第一歩となるのが、東京(成田)=ロンドン線のボーイング777。生まれ変わったデザインとサービスには、そのすべてに日本のおもてなしの心を込める。第2回となる今月は、10年ぶりのリニューアルとなるビジネスクラスをご紹介します。進化したJAL SUITEの詳細をご覧ください。

村松謙二(編集部)=文
Text by AGORA



めざしたのは世界最高の居住性。「寝る」のではなく「眠る」ことができる、フルフラットのベッド。



機能的にレイアウトされた客室。窓側の座席は前から通路へアクセスする。



シート幅52cm、ベッド幅65cm、ベッド長188cm。総座席数はボーイング777で49席。座席配列は2-3-2となった。



大型で回転するテーブル。ラップトップのパソコンもゆったりと置くことができる。



通路側座席の出入り口と大型のオットマン。その下には広い収納スペースも用意。

ビジネスクラスの誕生は、1970年代半ばに遡る。当時はボーイング747型機などの大型機の導入に伴い、海外旅行の大衆化が進んだ時期。これによりエコノミークラスに「団体割引運賃」などの各種割引運賃が導入され、通常料金でエコノミークラスに搭乗する顧客との間に不公平感が生まれた。そこでパンアメリカン航空が、おもに出張で利用する顧客への専用サービスとして、専用コンパートメントの設置や座席サイズやピッチの拡大、機内食の充実を図った。この「クリッパークラス」(Clipper Class)と呼ばれた中間クラスが、諸説あるが後のビジネスクラスのサンプルと

して各社に導入されていく。その後2000年にプリティッシュ・エアウェイズが長距離路線に導入したフルフラットシートが、ビジネスクラスのシートに革新をもたらした。現在では長距離路線を中心に、フルフラットシートもしくはライフラットシート(170度程度リクライニングするが、床と完全に平行にはならない)が主流となっている。シート配置は狭い足部と広い頭頂部を隣接させ無駄なスペースを減らした前後対称式、通路に対し座席を斜めに配置するヘリンボーン式、座席が半列ごとにずらされて配置されているスタッガード式などがある。現在では機種や路線に合わせて、航空各社がそれぞれの形で独自のサービスを提案するようになった。

「導入される新しいビジネスクラスはファーストクラスを作る気持ちで開発にあたりました。フルフラットと全席通路アクセスを基本に、プライバシーが保たれ、しかも狭さを感じさせないデザインへと、議論を重ねました。シートフアプリックはワインレッドとして重厚感を出し、腰から上は空間の広がりを感じさせるオフホワイトをベースにしてあります」と語るのは、日本航空商品サービス開発部の藤島浩一郎だ。

シートに腰をかけてみる。筆者の身長は180cm、体重は100kg。最初は充実したプライバシー空間が出来上がった、という印象だ。回転する大型のテーブル、一カ所にまとめられたPC電源とUSBポート、映像入力端子。当クラス最大級の23インチと大きくなったモニターを操るのは、液晶タッチ式となったコントロールである。わずかにアームレストの位置が低いかなとも感じるが、これは個人的な問題だろう。モニターの下にはオットマンと、大型の収納スペースもあり、ビジネス用のアタッシェケースも楽々と置くことができた。開閉可能なプライバシーパーティションもあり、ご夫婦や友人同士での旅行には重宝するだろう。

ベッドのセッティングにしてみる。高反発のマットレスと高機能の枕、そして肌触りがよく大きな「かけぶとん」(コンフォーター)が揃うと、自宅のベッドにも勝る感じだ。丸まって寝るのではなく身体を大きく伸ばして眠る、という気持ちになる。

11月下旬——。日本航空は東京・青山のカフェで、導入予定の全クラスのシートを体験できるコナーを期間限定で開いた。ビジネスクラスで提供予定の新機内食がカフェのメニューとしても登場し、



世界最高のレストランといわれた「エル・ブリ」のフェラン・アドリア氏に師事した山田チカラシェフが監修した「トリュフハンバーグ 山田チカラスタイル」。仙台牛と豚の合い挽きハンバーグにたっぷりのトリュフと温泉卵をのせた独創的な一皿。

対象路線 / 成田発ニューヨーク、ボストン、シカゴ、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、フランクフルト線にて、2013年1月9日～提供。



東京港区「Royal Garden Cafe青山」にて期間限定で行われた新サービス体感イベント。多くのお客さまに新しいシートを体験いただいた。

たくさんのお客さまに体験していただいた。
横浜からいらした佐藤さん(写真上)に座り心地を伺ってみる。
「他のエアラインのフルフラットシートは足を載せる部分が狭くなっているものが多いので、少し窮屈に感じていました。こちらは、広いですね。僕はイギリスへの渡航が多いのですが、10時間以上のフライトでも、このパッケージなら快適だと思います。今度は空の上で体験したいですね」と嬉しいコメント。導入が待ち遠しい、一つ上のビジネスクラスとなった。

WELCOME!
NEW SKY

Boeing
777